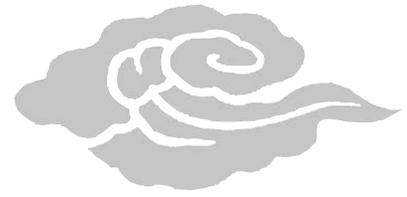


# 建設会報 いずも



No.132  
2019年 新春号



## 表紙の言葉



今年の干支イノシシは、稲や野菜、果物を食べた挙げ句に田畑を掘り返す厄介者扱いされています。

出雲市森林政策課によると出雲市内におけるイノシシの有害捕獲頭数は平成28年度1,824頭、平成29年度は1,210頭と減少傾向ですが、昨年は木の実や果物が豊富だったことから山を下りて来なかったそうです。

しかし、農産物への被害は年々増す一方で、農家を始め関係者は頭を悩ませています。

その厄介者も冬の鍋物ポタン鍋をはじめ、最近ではハム、ソーセージ、クンセイ、缶詰、コロッケにラーメン、串揚げなど幅広い食品のほか、革製品としても加工され今やジビエの主役として人間様に貢献しています。 えと文 / 渡部良治

# Contents

- 
- 01 巻頭言 中筋 豊通〔一般社団法人 島根県出雲地区建設業協会会長〕
- 
- 03 新年のご挨拶 大作 和弘〔国土交通省出雲河川事務所長〕
- 
- 04 福間 正美〔出雲労働基準監督署長〕
- 
- 05 荒薦 章二〔出雲警察署長〕
- 
- 06 高田 英治〔出雲県土整備事務所長〕
- 
- 07 平成30年度 優良工事等表彰 表彰一覧
- 
- 09 優良工事知事表彰を受賞して 渡部 勝志〔株中筋組〕
- 
- 10 内田 修司〔株トガノ建設〕
- 
- 11 旭日小綬章 受章 中筋 豊通〔一般社団法人 島根県出雲地区建設業協会会長〕
- 
- 13 年男の抱負 安達 稔〔株ダイニ〕
- 
- 14 荒木 克之〔昭和開発工業株〕
- 
- 15 全国建設業労働災害防止大会に参加して 仙田 考生〔山陰建設工業株〕
- 
- 16 経営研修会2018 三島 一男〔ミシマ産業株〕
- 
- 17 創立70周年記念事業 研修旅行記 土江 のり子〔株丸嘉土建〕
- 
- 18 現場見学体験談
- 
- 19 インターンシップ体験談
- 
- 21 女性による安全・環境パトロール(通称:女子パト)の実施 堀江 彩夏〔大福工業株〕
- 
- 23 建設業魅力発信事業〈土木の日 記念イベント2018〉
- 
- 24 編集後記 日下 雅彦〔クサカ建設株〕
-

## 平成三十一年 年頭所感 『ポジティブに』 為すべきを為す!



一般社団法人 島根県出雲地区建設業協会  
会 長 中 筋 豊 通

明けましておめでとうございます。

平成三十一年の新春を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

本年の干支は「亥」、十干で言えば「<sup>つちのと</sup>己」、<sup>つちのと</sup>「つちのと・い」となります。

「亥」には、「かねる。かたい。とざす。陰気極まって陽気のきざすこと。根ざす。きざす。」という意味がありますが、「つちのとい」を総合的に判断すると、陰からネガティブな印象を受けますが、良い意味で植物が育つ豊かな土壌でもありポジティブな面を持っています。また、「猪突猛進」という言葉がありますが、向う見ずに突き進んでは駄目ですよ。

つまり、己亥の年は、プラス思考で、しっかり目標に向かって計画を立て行動して行けば良い年になる、そんな年ではないでしょうか。

現在、全国各地で大規模災害が多発している中、平成30年度、1次補正により、昨年七月豪雨への対応、学校の緊急重点安全確保対策が実行、更に国土強靱化の対策費として1兆円を超える2次補正が計上されましたが、31年度予算はどうなるのでしょうか。

安倍首相は「経済最優先」と強調し、米中貿易摩擦の悪影響が及ぶリスクも念頭に置き「経済の回復基調が持続するようしっかり対応する」と表明。一方、石井国土交通相が防災・減災対策の公共事業の大幅な強化を要請し、首相は「国土強靱化のための緊急対策が喫緊の課題だ」と応じて具体化を指示しました。



消費税に備えた経済対策として、キャッシュレス決済時のポイント還元や、プレミアム商品券を発行、住宅購入支援、更に米中貿易摩擦のリスクに対応、国土強靱化の緊急対策を実行「臨時・特別の措置」として盛り込み、総額が当初予算として過去最大を更新するのが確実で、100兆円を超えそうです。

島根、取り分け出雲はどうなって行くのでしょうか。幸いに出雲地域においては近年大きな災害が発生していません。防災・減災対策をしっかりと行い、災害に備えつつ、不幸にも災害が起きた場合、協会をあげて対応していかねばなりません。

厳しい状況下ではありますが、我々が為すべきことは何か、もう一度、原点に戻り、

一つ、基幹産業として雇用を支えながら、地域を支える。二つ、危機管理産業として、災害から地域を守る。三つ、誇れる産業を目指し自己研鑽。協会として三つの目標を実行し、地域に信頼される協会になれるよう「ポジティブ」に頑張って行きましょう。

協会員の皆様、本年も昨年同様、宜しくお願い申し上げます。

ありがとうございました。

国土交通省中国地方整備局  
出雲河川事務所  
所 長 大 作 和 弘



明けましておめでとうございます。謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。日頃より国土交通行政、とりわけ河川行政の推進にご支援とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

斐伊川水系では、いわゆる治水事業の3点セットのうち、志津見ダム、尾原ダム、斐伊川放水路がすでに運用を開始し、昨年は「平成30年7月豪雨」と「台風第24号」の際、斐伊川放水路への分流を行うなど、水位低減効果を発揮しています。引き続き、地域の皆様のご理解を頂きつつ、残る大橋川改修及び中海・宍道湖の湖岸堤整備を着実に進捗させ、安心・安全な地域づくりに貢献して参ります。

また、社会全体で洪水に備える「水防災意識社会」を再構築するため、国、県、市、町が一体となり行う減災のための取組を実施しています。大橋川改修等のハード整備を着実に進捗させるとともに、想定最大規模の降雨によるハザードマップの作成、防災教育や多機関連携型タイムラインの作成等のソフト対策を関係者と連携・協力して一体的・計画的に進めて参ります。

さらに、斐伊川流域の地域振興を目指し、尾原ダム、志津見ダムの水源地域ビジョンの推進や、水辺に賑わいを生み出して持続的な取り組みとして定着させていく「ミズベリング<sup>えにし</sup>縁」の一員としての活動の継続、ガン、ハクチョウ等多くの大型水鳥類が飛来し、2年連続でコウノトリのヒナが誕生した豊かな水辺環境を保全・再生するとともに、観光や農業と連携して地域の活性化を目指す生態系ネットワーク形成などの様々な取り組みを、関係者と連携して引き続き取り組んで参ります。

地元建設業の皆さまは地域の安全・安心を守り、地域経済を支える「砦」です。地域防災力の向上を図る上では、災害時の即応性はもとより、平常時における河川の維持管理が重要です。地域を守るためには、我々、河川管理者である出雲河川事務所はもちろん、地元精通した建設業に携わる皆様の力が必要不可欠です。

昨年11月には、鳥根県出雲地区建設業協会、しまね建設産業イメージアップ女子会、鳥根県出雲県土整備事務所、出雲市等の皆様方とともに、建設業の担い手確保を目的の一つとして、斐伊川放水路周辺を会場に4回目となる「土木の日記念イベント」を開催しました。当日は多くの方々にご来場いただき、建設機械の展示、斐伊川放水路バスツアーや斐伊川放水路事業完成5周年記念の分流堰カードの配布等様々な企画を通じて、建設業のイメージアップにもつながったものと思います。

こうした取組も含め、建設業協会の皆様方には女性技術者の活用、若手技術者の育成などを通じた安全・安心な地域づくり、地域の活性化に寄与するご活躍を期待しております。

最後に、貴協会の益々のご発展と会員の皆様方のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



出雲労働基準監督署  
署長 福間 正美

あけましておめでとうございます。

旧年中は、協会及び会員各位には当署業務につき、ご支援、ご協力を賜り、ありがとうございました。

殊に、労働災害防止、働き方改革の周知といったことにつき、ご支援、ご協力をいただいたこと、心より感謝申し上げます。

私事ながら、18年ぶりの出雲監督署での勤務となり、大きく変わった管内事情に戸惑うことも多かったのですが、会員の中に懐かしい顔を見てほっとしたこともありました。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

昨年を振り返ってみますと、地震や、水害など、自然災害が相次ぎましたが、やはり平時からの備え、防災対策が重要であると再認識させられたように思います。労働災害もめったに起きるものではありませんが、日頃からの災害防止の取り組みが重要だと思います。

また、昨年の夏は猛暑で、これまでになく、熱中症による労災請求が多くありました。熱中症対策こそ、早めの備えがすべてです。4月ごろには準備をしておく必要があります。

昨年、いろいろな機会に申しあげてきたことですが、近年、休業災害が減りません。重篤な災害を防ぐ取り組みだけでなく、短期の休業災害や不休災害を減らすような取り組みを是非お願いします。

例えば、建設業の災害で一番多いのが墜落・転落災害ですが、この中で意外と多いのが、はしごや、脚立など低い位置からの墜落・転落災害です。はしごや、脚立を使ってはいけないということではないのですが、実際に災害が多いので、使い方についてはしっかりと指示することが重要です。

また、2番目に多い切れ・こすれ災害は木工機械やグラインダーのような機械によるものが多いと思いますが、現場で使用される機械は手で持つタイプのもの（可搬式）が多く使用されており、不安定な状態で使用して、けがが発生しています。

また、全業種で一番多いのが転倒災害です。転倒災害は件数だけでなく、骨折などによって休業期間が長くなる傾向があることから、当署ではその予防に力を入れています。

各社の工事内容に応じ、生じやすい災害について、こまめに取り組みを行っていただきますようお願いいたします。

最後に働き方改革についてです。建設業の時間外労働の上限規制の適用は猶予期間があり、2024年からですが、60時間超の残業の割増率の引き上げは2023年から、年次有給休暇の時季指定については、今年の4月からです。このように労働時間規制が厳しくなることについて、人手不足感が強い中、困るという意見があることは承知しておりますが、人手不足であるからこそ、若い人が建設業に魅力を感じるような、休みやすい環境を作ることが大切だと考えています。

お困りのことがあれば、相談に応じておりますので、お気軽にご相談ください。

最後になりますが、協会及び会員各位の益々のご発展を祈念して、新春のご挨拶といたします。



出雲警察署  
署長 荒薦 章二

明けましておめでとうございます。

一般社団法人島根県出雲地区建設業協会の皆様におかれましては、輝かしい新春をお迎えることとお慶び申し上げます。

会長をはじめ皆様方には、平素から暴力団排除活動はもとより、警察行政の各般にわたり、深いご理解・ご支援を賜っておりますことに対しまして、厚く御礼申し上げます。

さて、昨今の島根県内及び当署管内の治安情勢ですが、治安のバロメーターと言われます刑法犯認知件数は、ピーク時の3分の1以下まで減少し、数値的には良い傾向に向かっていますが、凶悪事件や女性・子供への声かけ事案をはじめ、暴力団の関与が窺われる特殊詐欺被害が後をたたない状況にあります。

全国の暴力団情勢に目を向けてみますと、10年前に比べ構成員等（含む準構成員）は半減しているものの、六代目山口組から離反して出来た神戸山口組、さらには神戸山口組から分裂した任侠山口組の3団体による対立抗争が発生するなど市民生活を脅かしている状況にあり、警察では市民生活の安全確保に向け、全国警察を挙げて集中取締りを展開し、反社会的勢力の弱体化に努めているところです。

島根県内の暴力団は、3団体が事務所を構え、構成員等約90名となっておりますが、3団体とも鳥取県内にある六代目山口組二次団体の傘下にあります。

暴力団は、常に資金源の確保・獲得のために動いております。

全国的には特殊詐欺への関与の他、多数の飲食店等からみかじめ料名目で現金を集めるなどの伝統的な資金源獲得活動はもとより、建設関係では、業者を上手く取り込んで個人の会費名目での現金徴収、公共工事への派遣事業など巧妙な資金獲得活動を展開しております。

こうした情勢の中、ここ出雲市においては、皆様のご協力により長年にわたって、暴力団事務所の進出を許しておりません。

これは協会の皆様をはじめ、市民の皆様、出雲市などの関係機関、各企業の方々などが警察と一体になって、暴力団排除活動に取り組んでいただいている結果であります。また、一昨年7月には、出雲市繁華街対策協議会（今市町及び周辺地域）を立ち上げ、より一層の繁華街対策にも乗りだしているところです。

皆様方には引き続き、

**「暴力団追放三ない運動+1」**

- 暴力団を利用しない
- 暴力団を恐れない
- 暴力団に金を出さない
- 暴力団と交際しない

の実践をお願いします。

出雲警察署では、協会の皆様方と緊密な連携を図りつつ、署員一同、暴力団等反社会的勢力を根絶するための活動を強力に推進してまいりますので、変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

終わりになりましたが、一般社団法人島根県出雲地区建設業協会の皆様方のご健勝と益々のご発展を祈念いたしまして、新年のあいさつとさせていただきます。

島根県出雲県土整備事務所  
所 長 高 田 英 治



新年明けましておめでとうございます。

一般社団法人島根県出雲地区建設業協会の皆様には、良き新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

皆様には昨年も出雲県土整備事務所の社会基盤の整備や施設の維持管理に格別のご理解とご協力をいただきました。深く感謝申し上げます。本年も何卒よろしく願いいたします。

昨年を少し振り返ってみます。2月に出雲市は大雪と異常な低温に襲われ、交通が長時間にわたり大混乱しました。4月には震度5弱の地震に見舞われ、佐田町内では多くの落石が発生し、佐田八神線では長期間の通行止めをせざるを得ない状況になりました。皆様には、除雪、応急対応等大変お世話になったところです。

全国に目を向けますと、台風や豪雨、地震が頻発し、土砂崩れ、浸水、損壊、液状化被害など、これまで目にしたことの無い経験したことのない大災害が各地で発生しました。7月に西日本の広範囲を襲った豪雨の死者は200人を大きく超え、平成に入って最悪の豪雨災害となってしまいました。幸い、当事務所管内ではここ数年、豪雨等による人命に係わる大きな災害は起きていませんが、日頃の危機管理意識が非常に重要であることをあらためて考えさせられた2018年でした。

今年行います当事務所の主要事業は次のとおりです。

交通ネットワークの強化に向けた矢尾今市線、出雲三刀屋線などの幹線道路整備や低平地の浸水被害解消を目的とする新内藤川水系・十間川・湯谷川などの河川改修、物流の強化のための出雲河下港整備、農業基盤の強化に必要な山王川整備などを引き続き推進するとともに、耐震化や長寿命化、道路の落石対策にも取り組み、圏域の安全・安心の確保、活力の創出につながる社会基盤の充実を図ってまいります。また、念願でありました浜山公園野球場については、昨年10月末に着工しました。公認野球規則に沿った規格で改修を進め、来年(2020年)5月末までの完成を目指すこととしています。

これからも皆様の強力なお力添えをよろしくお願いいたします。

亥年である2019年において一般社団法人島根県出雲地区建設業協会が力強くご発展されますことと、会員の皆様のご活躍されますことを心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。

# 平成30年度（平成29年度完了） 島根県優良工事等知事表彰

## ◇ 優秀建設技術者表彰（優良工事知事表彰）

部門	工種	工 事 名	会社名／代表者	主任技術者又は 監理技術者
土木	道路	斐川上島線 武部2工区 道路改築工事 第2期	株式会社 フクダ 代表取締役 長岡 秀治	穴戸 克己
	河川	赤川 河川緊急整備工事 白枝新大橋舗装工	株式会社 ダイニ 代表取締役 安達 稔	渡部 義孝
	港湾 空港	河下港 港湾改修工事 第5期	株式会社 中筋組 代表取締役 中筋 豊通	渡部 勝志
建築	建築	島根県営住宅出雲市天神団地新8号棟 建設 建築工事	トガノ建設・内藤建設工業特別共同企業体 代表者 株式会社 トガノ建設 代表取締役 梶野 直宏	内田 修司 足立 陽次
農林 水産	農業 土木	農村地域防災減災事業 滝が上池地区 ため池改修その2工事	株式会社 倉橋工務店 代表取締役 倉橋 一喜	金坂 篤

## ◇ 優秀建設技術者表彰（優良業務知事表彰）

部門	業 務 名	会社名／代表者	管理技術者
農林水産設計	地すべり対策事業 出雲地区 地すべり防止施設長寿命化計画策定 佐田2業務	出雲グリーン 株式会社 代表取締役 吾郷 直之	原 忠利

## 知事表彰受賞工事の紹介

道  
路



斐川上島線 武部2工区 道路改築工事 第2期  
(株式会社 フクダ)

河  
川



赤川 河川緊急整備工事 白枝新大橋舗装工  
(株式会社 ダイニ)

港  
湾  
空  
港



河下港 港湾改修工事 第5期  
(株式会社 中筋組)

建  
築



島根県営住宅出雲市天神団地新8号棟 建設 建築工事  
(トガノ建設・内藤建設工業特別共同企業体)

農  
業  
土  
木



農村地域防災減災事業 滝が上池地区 ため池改修その2工事  
(株式会社 倉橋工務店)

# 平成30年度（平成29年度完了） 島根県優良工事等所長表彰

## ◇優良工事表彰及び優秀建設技術者表彰

部門	工種	工 事 名	会社名／代表者	主任技術者又は 監理技術者
土木	道路	国道184号 反辺3工区 防災安全交付金(災害防除)工事(経済対策)その2	今岡工業 株式会社 代表取締役 今岡 余一良	足立 隆志
		(主)出雲奥出雲線 野尻2工区 総合交付金(改築)工事(経済対策) 第2期	株式会社 今岡興産 代表取締役 今岡 裕統	藤原 敏彦
		(主)斐川一畑大社線 鷲浦工区 防災安全交付金(改築)工事 第4期	株式会社 中筋組 代表取締役 中筋 豊通	中筋 紀
		(一)矢尾今市線 大塚工区 防災安全交付金(改築)工事 第15期	株式会社 ダイニ 代表取締役 安達 稔	吉野 誠士
		(主)出雲三刀屋線 上塩冶工区 総合交付金 (改築)工事 第2期(常楽寺残土処理場)	株式会社 ナカサン 代表取締役 中筋 雄三	馬庭 雅哉
		(一)十六島直江(停)線 西代橋 防災安全交付金(橋梁耐震)工事	山口建設 株式会社 代表取締役 山口 弥	伊藤 拓生
河川	赤川 県単河川緊急整備工事 第2期	株式会社 トガノ建設 代表取締役 梶野 直宏	遠藤 香織	
砂防	大谷地区 防災安全交付金(地すべり対策)工事 第5期(経済対策)	株式会社 コスモ建設コンサルタント 代表取締役 高島 俊司	玉木 慎吾	
建築	建築	島根県立大学(出雲キャンパス) 新棟整備(建築)工事	中筋組・御船組・ヒロシ特別共同企業体 代表者 株式会社 中筋組 代表取締役 中筋 豊通 株式会社 御船組 代表取締役 金築 邦彦 ヒロシ 株式会社 代表取締役 扇子 勇次	飯塚 晃洋 佐貫 康喜 小田川 昭二
農林 水産	森林 土木	平成29年度 林地荒廃防止事業(上島)山腹工事	株式会社 今岡興産 代表取締役 今岡 裕統	糸賀 学

## ◇優良下請工事表彰

表 彰 理 由	会社名(受注者)／代表者	会社名(下請業者)／代表者
島根県営住宅出雲市天神団地新8号棟 建設 建築工事	トガノ建設・内藤建設工業特別共同企業体 株式会社 トガノ建設 代表取締役 梶野 直宏	有限会社 渡辺組 代表取締役 渡邊 善男

## ◇特別表彰(所長表彰)

表 彰 理 由	会社名／代表者
長年の道路の維持管理業務における功績が顕著であるため	有限会社 山崎組 代表取締役 山崎 潔

### 平成29年度施工優良工事等表彰式



## 優良工事知事表彰を受賞して



(株) 中筋組  
渡部 勝志

この度、河下港港湾改修工事第5期に於いて、優良工事知事表彰を頂いたこと、大変光栄に思っております。

河下港は、出雲市平田地区の十六島（ウップルイ）湾内にある特定地域振興重要港湾で、主に石材を移出し、建設資材である砂や砂利、石炭石とLPGなどを移入しています。

本工事の目的は、河下港内の静穏度を高め、安定した荷役作業が出来る様、新たに沖防波堤を310m沖合に建設します。現在の完成延長は147.5m、内、今回工事の延長は45mでした。

工事の特徴として、ケーソン据付に係る一連作業には1函当り4日～5日の海上風日が必要となることです。また、据え付けるケーソンは、幅15m・高さ11.2m・奥行9.3m・重量は約1000tと大きな構造物で、海上運搬には約24時間を要します。工事を安全に施工するには、長期的な海象状況を把握し、風日を見極め、施工日を決断しなければならず、細心の注意を払い、3回のケーソン据付日を定めました。

また、海域工事を進める上で重要なのは、地元関係者の理解を得ることですが、日頃から地元漁業関係者及びJFしまね平田支所の皆様方とのコミュニケーションを十分に図り、信頼関係を築くように心掛けました。

今後も地元関係者の皆様方とのコミュニケーションを重ね、更に信頼が得られるよう努力を重ねてまいります。



最後に今回の受賞は、発注者である出雲県土整備事務所職員の皆様をはじめ地元の皆様、各協力業者の皆様のお陰であると心より感謝しております。ありがとうございました。

## 優良工事知事表彰を受賞して



(株)トガノ建設  
内田 修司

この度は、島根県営住宅（出雲市天神団地新8号棟）建設（建築）工事に於いて、優良工事知事表彰を頂き大変光栄に思っております。この工事は県営住宅の老朽化に伴う建て替え事業による工事であり、内藤建設工業株式会社様との特別共同企業体で受注した工事でした。

今回の工事は団地内での工事であった為、工事ヤードが非常に狭く、作業時間、騒音、振動には常に配慮が必要であり、その他多数の課題がありました。

工事ヤードの確保、近隣への配慮として、資材は必要な時に必要なほど搬入して不要になった物はすぐに搬出するように調整し、作業時間は8時から18時までとした上で、その時間以外は騒音を出さないよう工程調整等を行いました。

上記の項目については当たり前のように実際はできていないことが多いような気がしますが、当現場においてはその他にも現場の遵守事項を作成し、協力業者の皆様のご協力もあり徹底することができました。

大型車両の進入については9時以降～17時までと制限があった為、ラフター作業などの大型車両での作業がある場合は、前日の17時までに大型車両、資材を搬入してもらい、翌日は朝から作業ができる体制を整えたことにより工事の遅延がなく作業ができました。

基礎工事に於いて、土工事に先立ち試掘を行い、水位を確認し、現場ボーリング柱状図による水位とほぼ同じな上、水量も少ないことを確認し掘削工事を行いました。最終的にL=9.5の鋼矢板及び水中ポンプ4インチ2台併用により水位を下げ基礎工事が可能となりました。

躯体コンクリート打設については、出雲市内での工事が多数ありコンクリート打設日を変更すると、ポンプ車が確保できないこともあり1週間程度遅れることも想定されましたが、湧水発生以降に修正した全体工程表通りにコンクリート打設を行うことができたので躯体工事による遅延が無く施工できました。

狭い敷地内で資材ヤードの確保、工程調整を行い協力業者間での作業エリアが重ならないよう円滑に作業ができるよう調整し、協力業者の皆様のご協力により無事故、無災害で工期内に完成することが出来たことを嬉しく思います。

この他にも様々な課題が発生しましたが、団地内、地元の皆様、発注者様、各協力業者の皆様のご多大なご理解とご協力を頂き完成することができ大変感謝しております。

今回の工事は自分自身にとって貴重な経験になりました。今後も様々な課題にも対応できる技術力を身に付けて良い工事ができるよう努力したいと思います。



# 中筋豊通 会長 旭日小綬章 受章

平成30年秋の叙勲において、当協会の 中筋豊通 会長が、永年にわたる建設業功勞の功績により、『旭日小綬章』を受章されました。

この度の受賞は、10月23日(火)に閣議決定し、その後、天皇陛下のご裁可を経て11月3日(土)に政府の発令があったものです。

11月8日(木)には東京プリンスホテル“鳳凰の間”において、国土交通省関係の受賞者に対する伝達式が開催され、石井啓一国土交通大臣から勲章を授与された後、皇居“豊明殿”において天皇陛下に拝謁されました。

その夜には、建設業関連11団体共催の祝賀会が開催され、建設業団体関係者をはじめ国土交通省の幹部など多数の方が出席されました。

来賓の石井国土交通大臣は、「受賞者の皆様は、現場の最前線で業務に従事され、国民の生命と財産を守る役割をそれぞれの持ち場で永年にわたり果たされながら、大きな足跡を残して来られたことに対して改めて敬意を表したい。」と祝辞を述べられました。



国土交通大臣より賞状・勲章を授与される

この度の栄誉は、当協会にとりましても、また島根県の建設業界にとりましても誠に嬉しい慶事です。

中筋会長には、今後とも健康に留意され益々ご活躍されますことをご祈念するとともに、我々会員一同が今後も会長を支えながら一致団結して前進して行きたいと思いをします。



石井大臣、奥様、晴子室長と記念撮影

## ご挨拶

この度、平成30年秋の叙勲に際し『旭日小綬章』拝受の栄に浴しました。

これもひとえに、永年にわたる皆様方の心温かきご指導とご高配の賜物と深く感謝いたしております。

建設産業界は依然として厳しい環境下ではございますが、業界のみならず、地方経済の振興に寄与できるよう一層精進し、些かなりともご芳情に報いたいと存じますので、何卒従前のご厚誼を賜りますよう、ひとえにお願い申し上げます。

一般社団法人 島根県出雲地区建設業協会 会長 中筋 豊通



## 功績の概要

### 1. 建設事業における功労

昭和46年8月、株式会社中筋組監査役に就任以来、47年間一貫して建設業に身をおき、同社の拡大発展に尽くすとともに地域の建設業界の充実発展に寄与した。

昭和50年8月取締役、同58年5月には代表取締役に就任、経営トップとして古い企業体質を改善し、近代化・組織化に尽力した。

また中小建設企業の中にあっていち早く情報技術(IT)の重要性を認識し、傘下グループ内にIT系企業を設立。自社および傘下グループ内の徹底したIT化を推進し、業務の効率化・迅速化に努めた。同時に、社外の協力会社・建設業協会加入企業のIT化も積極的に推し進め、建設業界全体の近代化に大きく貢献した。

### 2. 一般社団法人島根県建設業協会における功績

平成9年5月より理事、平成12年5月から副会長、平成22年5月には会長に就任した。氏は建設業と地域の関わりを常に重視し、平成26年5月には県内建設企業の中長期ビジョン「島根県建設業将来ビジョン」を策定した。

また、将来予測される人口減少や建設従事者人手不足に対応するため、就職説明会事業や学生向けの企業ガイダンス、建設産業のイメージアップキャンペーンを立ち上げるなど、県内建設業への入職の促進に寄与した。

## 年男の抱負

(株) ダイニ  
安達 稔



新年明けましておめでとうございます。

穏やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

2019年、平成31年己亥（つちのとみ）年、平成から新元号に変わる年、個人的には還暦（祝いは早生まれの関係で昨年行う）となり、さまざまな区切りとなる年です。42年前、希望に満ち社会人となりました。年月が経つにつれ、その意識は薄くなってまいりましたが、一つ一つ歩んだ人生は社会人として大きく変わっていきました。積み重ねることで習慣となり人生を形作っていきます。新しい年を迎え、さらに一日一日を大切に、この1年間を過ごしてまいりたいと思います。

さて、みなさんはこの年末年始をどの様に過ごされましたか？ ゆっくり休まれた方、毎日所用であわただしくされた方などさまざまです。その様な中でも、通常通りに働いてこの社会を支えている、たくさんの人々がおられる事を忘れてはいけません。休日でも不自由なく買い物や移動ができ、医療やサービスそしてインフラ、安全に暖かく過ごせるのはそんな役割を担い日々働いている人のおかげです。今年は働き方改革が始まる年となります。それぞれの会社でその取り組みをされる事と思います。この際、「仕事とは」「働くとは」といった根本的な事を深く見つめ直すよい機会ではないでしょうか。人は一人では生きられない様に自分もまた、周りの多くの人と関わり支えられています。この社会を支え合う全ての人に感謝しこれからも頑張ったいと思います。

最後に、会員企業の益々のご発展と皆様のご健勝をお祈りいたします。

今年もよろしくお願いたします。

## 年男の抱負

昭和開発工業(株)

荒木 克之



平成も最後の年を迎え、いよいよ十二支最後の亥の年となりました。4回目となる年男であり、また弊社に入社してからも早や20年を超える月日が経ったところです。年々、時間が過ぎるのを早く感じるようになってきましたが、前回の年男だった36歳の頃を振り返りますと、弊社営業部は私1名だったため入札はじめ営業の業務全般をこなすのは結構忙しかったように記憶しています。また社外ではJCの専務理事をしていたため、かなり慌ただしい1年だったように覚えています。何より弊社にとっても翌年が親会社から独立した年でしたので、事務所が移転するなど環境も大きく変わった時期でした。そうしたこともあって、この12年間は会社にとっても私個人にとっても新しい始まり、『挑戦』という時間になったと思います。

ただこの12年、大きく工事の発注量が減ってしまいました。実感として一番に思うところは、当時A3の平田地区の建設業者名簿が、今ではA4の用紙半分程度になったところに表れていると思います。協会青年部会においても卒会を5年延長して辛うじて平田地域4名の会員が在籍しておりますが、それも来年には1名になってしまう状況です。そしてそれ以上に働き手の激減が最大の課題となっており、建設業協会でも様々な取り組みが行われておりますが、社内でも真剣に工夫を考えていかないと、時代の変化に対応できないと感じています。

今後、事故や病気、その他大きな失敗等がない限り、干支が2周する時間が残っていると思っています。これから還暦までの12年は毎年のように状況が変わっていく、こうした変化に柔軟に対応していくこと、そして様々なことに挑戦を続けることを目標にしたいと考えており、次につながる時間にしていきたいと思っています。

本年も何卒よろしくお願ひ申し上げます。

## 第 55 回 全国建設業労働災害防止大会に参加して



安全委員会  
仙田 考 生〔山陰建設工業㈱〕

私たち安全委員は、昨年9月20日・21日に開催された「第55回全国建設業労働災害防止大会」に参加して来ました。今年は横浜市のパシフィコ横浜が会場となり、延6,000人以上が全国より集まる大会でしたが、私は初めての参加でもあり、その規模に圧倒された事が強く印象に残っています。

開会が宣言されるとまず、建設業における労働災害の犠牲になられた方々への黙祷を全員で捧げ、建設業労働災害防止協会 錢高一善会長の挨拶、来賓の挨拶と続き安全衛生表彰・顕彰そして安全の誓いと順次執り行なわれました。

また、隣接する展示ホールには最新の保護具や機器が多数展示され、法改正に伴い用いられる「墜落抑制用器具」としてフルハーネス型安全帯が多種多様に展示されており、特に目を引きました。またVRを用いた事故の疑似体験など、言葉や資料だけでは伝えきれない事故の怖さを体験できる等、とても興味を引くものでした。

さて、頂いたことばの中では、建設業における労働災害防止の取組みの重要性はもとより、このところ毎年の様に発生する自然災害、或いはそれに伴う甚大な被害について多く触れられていた様に思います。今後の復興工事や防災を目的とした建設業の役割が重要度を増す中、労働災害防止活動の役割も大きくなるであろう事を強く感じました。

「安全の誓い」に於いては、建災防にて策定された「第8次5カ年計画」を基盤に、労働災害の根絶について強く語られました。これは平成29年度の死亡災害及び休業4日以上死傷災害がいずれも前年より増加した事、平成23年頃よりほぼ横ばい状態が続いていることに起因しています。私たち出雲或いは島根県においても昨年度死亡事故0件と安堵していたおり、一転平成30年度は死亡災害が発生するなど憂慮すべき事態となっています。今大会では「危険の芽 摘みとる目をもちリスクゼロ みんなで高める職場の安全」をスローガンに掲げていました。これまで行ってきた私たち安全委員のパトロール業務においても「リスクアセスメントの活用」は各現場における安全活動の中心であると実感していますが、大切なのはその経験からリスクを予見する目を養うことだと感じました。

最後に、私は普段の安全委員としての取組みについて十分なものかどうか、不安に思う事もありましたが、全国の活動状況や考え方を学び、より視野に幅を持たせる事が出来たように感じます。普段より分会長が口にされる「安全は出雲から」の精神で今後も取組み、努力して行きたいと思えます。



## 経営研修会 2018



経営改善研究委員会  
三島 一男〔ミシマ産業株〕

平成 30 年度「経営研修会」を下記のとおり開催しました。

平成30年11月19日（月） 出雲建設会館

### 【第1部】 「資産承継税制について」

（株）野村資産承継研究所 副主任研究員 おおさと けい 大里 佳（公認会計士） 様

### 【第2部】 「拡大続く中堅・中小企業のM&A」

野村證券(株) 法人開発部 マッチング業務課次長 いしの たけし 石野 猛士 様

まず第1部の「資産承継税制について」のご講演では、資産承継の概要、自社株式の評価方法、事業承継税制等について詳しくご説明いただきました。

資産の承継において最も重要なことは、財産を保有する方の「思い」だということです。「思い」とは、自身の財産を次世代へどのように活用して欲しいかを考えることであり、この「思い」をゴールとすると、スタートは「現状の把握」です。スタートからゴールまでの方策を検討し、実行することが「財産の承継対策」の基本になるということです。

そして、「現状把握」のひとつが自社の株価評価であり、その判定方式ですとか、評価のタイミングによって株価を変動させることが可能ですので計画的に実践することが大切です。

また、この度の研修会のメインとなったのは、平成30年4月1日からの税制改正で大きく改正された「事業承継税制の特例措置」についての解説でした。この特例措置が制定された理由は、日本国内において今後10年間で70歳を超える中小企業・小規模事業者の経営者は約245万人となり、うち約半数の127万人については、後継者が未定となっており、現状を放置すると、中小企業廃業の急増により、10年間累計で約650万人の雇用、約22兆円のGDPが失われるという大きな問題に直面しているからです。この特例措置を活用すれば贈与時・相続時の納税が最大で100%の猶予を受けることが可能になります。また、その要件もこれまでの一般措置と比較すると大幅に緩和されています。

この特例措置を受けるためには、まず平成35年3月31日までに都道府県へ「特例承継計画」を提出しなければなりませんのでご注意ください。

続いて第2部の「拡大続く中堅・中小企業のM&A」のご講演では、リーマンショックを契機に減少したM&Aの件数が近年では徐々に増加し今年では過去最高の4437件まで到達する勢いだということでした。島根県内に於いては5件と少ない水準となっておりますが、今後後継者問題等で増加していくことが予測されます。かつては、ネガティブなイメージが想起された時代もありましたが、目的に合ったM&Aは売手側・買手側の双方にとってメリットをもたらすものだという事です。

この度の研修会は事業承継について考える良い機会となりました。持続可能な企業であり続けるための準備を計画的に行うことが重要です。



## 創立 70 周年記念事業 研修旅行記



箱根 大涌谷

土江 のり子〔有丸嘉土建〕

出雲地区建設業協会創立 70 周年事業「親睦旅行」に参加させて頂きました。平成 30 年 10 月 25 日～27 日の 2 泊 3 日で静岡・伊豆方面へ旅立ちました。

1 日目は東京羽田からリムジンバスに乗り富士山五合目に向かいました。車窓から遠山に富士山を眺め、西方に向いどの地にいても富士山を感じる事が出来ました。改めて日本のシンボルにふさわしい事を実感しつつ近づけば近づくほど雄大で感動しました。又、河口湖や箱根と駅伝のテレビ中継で見る風景を眺めながら大涌谷に着きました。ロープウェイに乗り山頂に辿り着き、余りにも海外旅行者の方が沢山おられ驚きました。



車窓からの富士山

そこで 7 歳延命すると云われる硫黄の香りがする黒茹卵を頂きました。

2 日目は葦山反射炉、下田と歴史深い地を訪れました。その間に「天城越え」の歌詞にある浄蓮の滝にも訪れ、富士山からの恩恵の清流に山葵が自生しており爽やかな自然を満喫する事が出来ました。

3 日目は日本平ロープウェイ、世界遺産の三保の松原へ行き、水平線が限りなく広がり松林が清廉とされ天女伝説に相応しい世界遺産の地でありました。後は焼津から静岡空港～出雲空港直行便で帰りました。



浄蓮の滝



葦山反射炉

最後に、楽しい旅行を企画して頂きありがとうございました。日本の良き地を旅し、静岡空港では富士山の見送りを受け帰途に着きました。次の親睦旅行にも参加できますよう今日よりまた精進します。又、同じバスやホテル、観光地にご一緒させて頂きました皆様に感謝いたします。

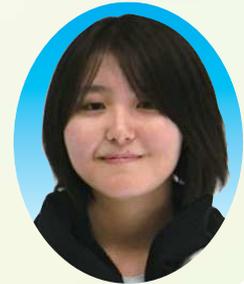
## 現場見学体験談

東部高等技術校運営委員会住環境・土木科部会（土木部会）の7名の委員に当協会の役員が就任しており、同校が行う事業に対して意見具申や情報提供を行っています。

また、同校が行うインターンシップ事業や現場見学会にも毎年協力をしており、平成30年は会員企業が受注した山陰道の工事（3箇所）において現場見学会に協力しました。

### 山陰道見学研修を体験して

島根県立東部高等技術校  
住環境・土木科2年 上村 綾香



私は技術校の研修で、山陰道の3つの現場を見学させていただきました。

どの現場もICTやドローンといった技術を用いて効率化を図っておられました。実際にMC・MGを搭載したモニター付きの重機に乗せていただきました。最近はICT化により誰でも重機オペレーターになれる時代になったと言いますが、熟練者が乗れば相乗効果が得られるというお話をお聞きしました。

また、リテラを用いた土質改良にはセメント系を使用したり、石灰系を使用したりと、どの現場も試験をし、慎重に検討してから施工しておられました。

テールアルメの施工作业を見学しました。ストリップの寸法ごとに色を付ける、巻出し厚を薄くする等、非常に工夫されていました。

鉄筋の組みたてをさせていただきました。鉄筋の組みたては授業で行う機会が少なかった為か上手いかず、見本通りには造れませんでした。

今回の見学研修ではICT技術の発達に驚くばかりでした。また職人の技術を間近で見、施工管理者のお話を実際に聞くことができ、非常に勉強になりました。どの現場も施工管理者と作業員の方々のコミュニケーションがとれており、仕事は信頼関係で成り立っていると感じました。私も信頼関係を大切にして仕事をしていきたいと思います。本当にお忙しい中、見学する機会を頂き、ありがとうございました。



## インターンシップ事業に協力しています

当出雲地区建設業協会では、毎年、出雲農林高等学校、出雲工業高等学校の生徒をインターンシップ（現場実習）事業として受け入れております。インターンシップの目的は、産業現場で勤労体験をすることにより、学習の進化及び個性の伸長と進路意識の高揚が図られると共に、協調性を養い、地域産業の認識を深めることにあります。

しかしながら、近年、建設産業への就職を希望する学生の減少を耳にしており、建設産業の果たす役割や正確な産業界の姿を伝えること、ものづくりの喜びや高度な技術力を身近に体験して頂き、併せて進路意識の高揚を図り、建設産業に対する理解を深め、関心を高めていただくことも我々の役目であると考えます。

### インターンシップ体験談

## インターンシップを終えて

島根県立出雲農林高等学校

環境科学科2年 垣田

要



今回、「株式会社フクダ」様で一週間のインターンシップを終えて多くの体験や、多くの工事現場を見学できて充実した時間を過ごすことができました。

特に水路トンネル工事の現場見学では爆薬の発破を見ることができ、とても印象に残りました。あまり大きな音が出ないだろうと思っていたのですが、想像をはるかに超える爆音で衝撃的でした。

今回は、工事中の道路を見学し、初めて見る建設機械や、学校ではまだ習っていないことをたくさん学べてよかったです。GPSを使用したバックホウがあることを知り作業効率が上がるよう機械も進化していることを知りました。今まで何気なく見ていたものでも、それぞれに意味があり、私たちの暮らしの安全や便利になるためのものであると改めて実感することができました。

今まで作業現場のイメージはピリピリしていて、ほぼ毎日働き詰めの日々というイメージでしたが、どこの現場も和気あいあいとしておりとても良い雰囲気で行うことができました。

作業体験では丁張りをを行い、現場のことなのに自分がさせてもらっているのかと不安もありましたが、丁寧に指導して下さったおかげでしっかりと行うことができました。作業中も電話が来たり、様々なことを覚えなければい



けなかつたりと、やはり働くことは大変なことなのだと感じました。

今回の体験で建設業の魅力をさらに知ることができ、今後の進路に向けて活かしていきたいと思います。



## インターンシップ事業に参加して

島根県立出雲工業高等学校

建築科2年 南場 萌花



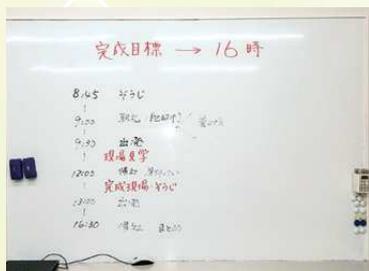
私が、インターンシップで行った事業所はキュービックホームでした。三日間の実習で知ることができたのは仕事内容のほんの一部でしたが、大きな学びになりました。

実習では、現場の見学、朝の掃除、プラン作成の体験など多くのことをさせていただきました。実習の中で特に学べたと思うことは、相手のことを考えて行動することの大切さです。お客様に分かりやすく説明するための工夫や贈り物など、小さなことでもお客様を想った仕事をするので、それが他社との違いとなり、お客様獲得につながると教えていただきました。また、会社や現場には様々な年代や立場の方がおられました。お客様のことはもちろんですが、一緒に仕事をする相手のことを考えるというのも、良い仕事をつくるためには必要なことであると感じました。

今の私は、自分が楽をする方法を考え、面倒なことから逃げてしまいがちな所があります。仕事を100%にするのは当たり前で+  $\alpha$  をするかどうかが重要であると、担当の方がおっしゃったのが印象に残っています。その+  $\alpha$  をするには、面倒くさがらず積極的に自分から行う気持ちとそのための知識が必要だと思いました。

三日間のインターンシップは、自分に足りないものを見つける貴重な機会になりました。

今回得たものを今後の学習や日々の生活に活かしていきたいです。このような体験をさせていただいた企業の方々に深く感謝いたします。



## 女性による安全・環境パトロール (通称：女子パト) の実施

建設業界への若者の入職が減少する傾向にある中、従来「男性職場」と言われてきた建設業界や運送業界などの分野への女性の就職が増えてきました。

その傾向は今後も続くものと思われ、建設業界にとっても女性は益々貴重な戦力となっています。

そのため建災防出雲分会では、女性の視点で建設現場を点検し改善点等を探るため、『女性が働き易い魅力ある建設現場を目指した安全・環境パトロール』を実施しました。

このパトロールには、会員企業から15名、しまね建設産業イメージアップ女子会から6名、そして国土交通省松江国道事務所から2名、計23名の女子職員（事務9名・技術14名）の方にご参加をいただき、10月5日（金）に2箇所の現場をパトロールしました。

パトロール実施後には、建設会館において意見を取りまとめましたが、

- ・灰皿が外に設置してあるのは良いが、入り口に近すぎる。もっと遠くへ！
- ・女性用のトイレ・更衣室・休憩室などが充実しているのは素晴らしいが、男性用ももっと充実すべきでは？

など、多数の意見が出ました。

なお、提出していただいたご意見は、取りまとめうえで発注者・受注者へお知らせしました。



## 「女性による安全・環境パトロール」 について



大福工業(株)  
堀江 彩夏

“女性が働きやすい魅力ある建設現場を目指した”女性による安全・環境パトロールに参加しました。出雲湖陵道路 知井宮改良 第4工事、(一)矢尾今市線 大塚工区 防災安全交付金(改築)第16期の二つの現場で、安全面の他に事務所や現場が働きやすい場所であるかなど環境面についても着目して行われました。

安全面では、危険個所の注意喚起の表示が多く分かりやすいという印象を受けました。そして、AEDの設置や現場に行かなくても現場の様子分かるようカメラが設置してあり良かったです。また、階段の高さや角度は自分の基準に合わせると、他の人にとってはもう少し対策が必要だと感じることもあると思います。歩幅や身長は人それぞれ違うため他の人のことも考えることが大切であると改めて思いました。

また、環境面では事務所や現場の整理整頓、喫煙場所の位置、トイレの設置状況などに興味を持っている方が多かったです。その中でも、一番多くの方が興味を持っていたのがトイレではないでしょうか。更衣室のついたとても広いトイレがあり驚きました。外からトイレだと分かりにくいなどの工夫もしてあり良かったです。両方の事務所、現場ともに綺麗に整理整頓されていたと感じました。仕事をする場所なので、綺麗な状態を保つことが仕事への意欲や健康に働くことに関係すると思います。

最近女性が働きやすいような環境が重視されていると感じています。しかし、女性だけでなく男女共に働きやすいと感じられる環境を作ることが重要であると思います。それがより安全に、そして効率的に仕事をすることに繋がるのではないのでしょうか。そのためには、一人一人が意識しアイデアを出す必要があると思います。たくさんの意見やアイデアを参考にすることで、今よりも働きやすい環境になっていくと思いました。

今回のパトロールは、同じ建設業で働く女性の方々と話が出来る貴重な時間でした。普段仕事をしていると女性の方に会う機会は少ないですが、色々な話を聞いてもっと努力しなければいけないという気持ちになりました。そして、自分では気づかなかった意見が多くあり、違う視点で考えることも忘れてはいけないと思いました。また、他の現場を見る機会もなかなかないので、勉強になることが多くありました。今回学んだことを参考にして、自分の現場に活かせるように工夫していきたいです。とても有意義な時間でこれからの役立つ経験が出来て良かったです。ありがとうございました。



## 土木の日 記念イベント 2018

当協会では、11月18日の「土木の日」に記念イベントを開催し、建設業の担う役割や使命そして魅力をアピールしています。

4回目を迎えた今年のイベントは、11月3日（土）に斐伊川放水路周辺を会場に開催し、主に小学生の親子連れなど約300名の方にご来場いただき、「各種の模型展示と実験」「木工・糸でんわ・ファブリックパネルなどのものづくり」「ミニチュア重機を使った遊び」「ドローンの展示と飛行実演」「各種の建設機械の展示と搭乗体験」など、多彩な催しを行いました。

このイベントを通じて、地域の方には建設業の重要性を再認識していただき、また参加した子供たちには建設業に興味をもってもらい、“将来は建設業に就きたいな”と思う気持ちが少しでも湧いてくれれば嬉しいことです。



# 「平成最後」 ～ 30 年をふり返る～



## 編集後記

「平成生まれです」と言われると、「若いねー」という会話をする今日この頃だが、あと数か月で新しい元号になる。これを以て「平成」も過去の元号となる。振り返れば平成元年、当時の総理大臣は島根県出身の竹下登総理。消費税がスタートし時代の変わり目を感じたものだった。自分自身も出雲で建設業に関わり始めた年でもある。当時は景気も良く、建設業は右肩上がり。しかし、それも長らくは続かなかった・・・。

平成の30年の間に建設業も大きく変わった。特にIT化だ。図面はCAD化され、書類は手書き→ワープロ→パソコンと進化していった。データ化も進み、電子入札、電子納品など、ペーパーレス化が進み、人と接する機会は減っていった。インターネットにより世界中の情報が入り、SNSにより情報発信出来るようになった。携帯電話は生活を大きく変えた。全国各地や海外からでも手元から通話が可能となった。スマホも普及し通話だけではなくメールやLINEにより文字でやり取りする時代になった。

そしていよいよ5月1日より新しい元号がスタートする。どんな元号に決まりどんな時代になるのか。昨年の漢字は2度目の「災」。建設業とは切っても切れない文字であるが、この文字から日本を守れるのも建設業ではないだろうか。新しい時代への転換期に建設業全体が元気になり、この地域にはなくてはならない業種として頑張っていこうではないか。

経営改善研究委員会

委員 日下 雅彦〔クサカ建設株〕

- ❑平成元年(1989)  
消費税はじまる。税率は3%
- ❑平成2年(1990)  
年明けから株価下落、バブル経済崩壊
- ❑平成3年(1991)  
ソビエト連邦が崩壊
- ❑平成4年(1992)  
東海道新幹線で「のぞみ」運転開始
- ❑平成5年(1993)  
冷夏・豪雨などの異常気象で米が大凶作
- ❑平成6年(1994)  
オウム真理教による「松本サリン事件」発生
- ❑平成7年(1995)  
阪神・淡路大震災発生
- ❑平成8年(1996)  
「たまごっち」発売
- ❑平成9年(1997)  
消費税が5%に
- ❑平成10年(1998)  
長野オリンピック開催
- ❑平成11年(1999)  
福岡ダイエーホークス、球団創設初の日本一に
- ❑平成12年(2000)  
シドニーオリンピック 女子マラソンで高橋尚子が金メダル
- ❑平成13年(2001)  
スタジオジブリ「千と千尋の神隠し」公開
- ❑平成14年(2002)  
サッカー日韓ワールドカップ開催
- ❑平成15年(2003)  
横綱・貴乃花と武蔵丸が引退。朝青龍が横綱昇進
- ❑平成16年(2004)  
新紙幣発行
- ❑平成17年(2005)  
愛・地球博(愛知万博)開催
- ❑平成18年(2006)  
トリノオリンピックで女子フィギュアの荒川静香が金メダル
- ❑平成19年(2007)  
食品偽装問題が相次ぐ
- ❑平成20年(2008)  
アメリカの証券大手リーマン・スラザースが破綻(リーマン・ショック)
- ❑平成21年(2009)  
映画「おくりびと」がアカデミー賞最優秀外国語映画賞
- ❑平成22年(2010)  
NHK連続テレビ小説「ゲゲゲの女房」が大ヒット
- ❑平成23年(2011)  
東日本大震災発生
- ❑平成24年(2012)  
東京スカイツリー竣工
- ❑平成25年(2013)  
「倍返し」が流行語に(ドラマ「半沢直樹」より)
- ❑平成26年(2014)  
ソチ冬季オリンピック男子フィギュアの羽生結弦が金メダル
- ❑平成27年(2015)  
お笑いコンビ「ピース」の又吉直樹『火花』が芥川賞受賞
- ❑平成28年(2016)  
アイドルグループ「SMAP」解散
- ❑平成29年(2017)  
上野動物園でジャイアントパンダ「シャンシャン」誕生
- ❑平成30年(2018)  
大雪、豪雨、台風、猛暑、地震など自然災害が多発

一般社団法人

**島根県出雲地区建設業協会**

〒693-0028 出雲市塩冶善行町2-2

TEL : 0853-21-1187 FAX : 0853-21-2454

出雲地区ホームページ (<http://www.shimakenkyo.or.jp/izumo/>)